

てかがみ

主な登場人物

武田勇一 (六十歳) 旅行代理店経営

亮子 (二十八歳) 勇一の娘。小学校教師

レイチェル ターナー (五十四歳) ジョンの母親

ジョン ターナー (三十二歳) 新潟市内の高校英語教師

高校の校長

会場係

披露宴の客達

武田カヨ (昭和二十年当時二十八歳) 勇一の母

五歳の勇一

リチャード マクベイン (当時二十七歳) 捕虜収容所の軍医

杉本監督

捕虜 1

捕虜 2

捕虜 3

憲兵

衛兵

荷役の労働者達

運送会社の社員達

第一幕

幕があくと、亮子とジョンの結婚披露宴。
ジョンが正面の席に腰掛けている。
勇一と、レイチエルは、別々の場所に腰掛けている。

会場係

花嫁のご入場です。
お色直し
一層艶やかに
ご入場です。

亮子、仲人とともに現れる。
写真を撮るものなどなど。

コーラス

さらにみめ麗しく
幸せに光る
春秋は乙女の喜び
夏は乙女の夢を見る季節
冬は乙女の優しさ
明日こそ乙女の希望
さらにみめ麗しく
幸せに光る

亮子、ジョンの隣に腰かける。

会場係

皆様、たった今、新婦亮子様の教え子さんたち、
長岡から到着いたしました。今日は長岡花火大会の
前夜祭、渋滞で遅れたのです。

子供たち、現れる。
コーラスの体制に並ぶ。

亮子

(ジョンに) 私のクラスの生徒達が私たちのために
歌を歌ってくれるの。この日のために練習したのよ。
素晴らしいわ。
これ以上のお祝いはないわ。亮子。

レイチエル

亮子

私もそう思います。
決して忘れないわ。

火災報知器が鳴る。
騒然となる。

会場係
客たち

(台詞) 落ち着いてください。大丈夫です。
(台詞) 火事ですか？ 火事なのですか？

亮子、子供たちを集める。

客たち
会場係
亮子

(台詞) 火元は？ 火元はどこ？
(台詞) 非常口に誘導します。落ち着いてください。大丈夫。
ああ、なんていうことかしら。
私は、あさってこの国を出て行く。
大切な今日を。なんてことだろう。

会場係
亮子

(台詞) とにかく、すぐ外に！
(台詞) 披露宴なんてどうでもいい。
子供たちを、早く！

火が回ってくる。

大人達、子供たちを守り、非常口に誘導する。

ジョン
亮子

忘れられない結婚式になったね。
ええ、決して。でもジョン。いやな思い出になるんじゃない？
どうして？燃えるほどの熱い思い出だよ。

ジョン
校長先生

(亮子に) 僕が勤めている高校の校長先生。

ジョン、亮子を紹介しようとする。

校長先生

(手を振り) 花嫁の紹介は、この次にしませんか？
(勇一に) 提案があります。
この続きを私の学校でやりましょう。

てかがみ

レイチエル
ジョン
校長先生
レイチエル
ジョン
校長先生

学校で？
学校で？
どうですか？
なんてグッドア イディア！
いいんですか、校長先生？
このままお国に返すことはできません。
（みんなに）さあさ、私たちの学校へ。
もつともつと燃える披露宴を
私たちの学校で
この続きをいきましょう！

みんな、高校で披露宴の続きをやることに
興奮しつつ、去る。炎が盛んになり、勇一
立ち止まり、それを眺める。

勇一
亮子
勇一

どうしたということだ。
幻覚なのか？
どうしたの、お父さん？
何でもない。
ちよつと頭がクラツとしただけさ。
煙のせいだろう。
（ジョンに）さあ、行きましょう、新郎殿。

亮子とジョン、去る。
正面の壁が割れる。
県営埠頭が浮かび上がり、捕虜や暁隊の
兵隊達が荷役作業をしている。
作業歌が、歌われている。

コーラス..

肩に食い込む音が腹が鳴る音か
春秋は一日十時間
夏は一日九時間
宿舎は一人一畳
一日一人当たり穀物七〇五グラム
規則ではそうだが
人參ジャガイモの切れ端

(コーラスに重ねて)

勇一

おれたちに配給されたはずの
砂糖や肉は
収容所の衛兵や看守が横流し
肩に食い込む音か
腹がなる音か

あれはどこかで見たことがある……
母さん！

カヨ、五歳の勇一の手を引いて現れる。

亮子

どうしたの、お父さん？

勇一

見えないか、私の母さん。

私の手を引いて、こっちに来る。

亮子

ジョン。一体私のお父さん、どうしたの。

ジョン

火事に気が動転したんだろう。さ、お父さん。

ジョンと亮子が勇一を連れて行く。

コーラスが終わる

カヨ

勇一、見えるかい

あの船にお父さんが乗っている。

五歳の勇一

お父さん、何をしているの？

カヨ

アメリカ軍が落とした機雷を探し出して引き上げる。

お父様のお仕事はとても大切。

今に港中の機雷を全部引き上げるわ。

五歳の勇一

(台詞)(杉本監督を指さして) 杉本のおじちゃんだよ。

おじちゃんは何をしているの？

カヨ

連合軍の捕虜達の監視。

(行きたがっている勇一を引き止めて)

駄目よ、お仕事の邪魔をしちゃ。

杉本監督(左足が不自由)が監視する中を輸送
船から大豆の袋を下ろす捕虜達、外国人強制
労働者達。荷役の一人が荷物の重さに耐えき

れず、海に落ちる。

捕虜達

落ちたぞ！海に落ちた！

ロープを放れ！

ロープを掴め！

ロープだ！

ロープだ！

駄目だ、そんな力がない！

二人の捕虜が、海に飛び込む。

捕虜達

軍医殿！ 軍医殿！

落ちたのは捕虜じゃない。捕虜達、作業に戻れ。

二人の捕虜、海に落ちた外国人強制労働者を
助け上げる。

リチャード、現れる。

杉本監督

(リチャードを遮り) 捕虜じゃない、お前が診なくてもいい。

リチャード

捕虜だろうが何だろうが私には関係ない(診る)

捕虜1

頭をひどくぶつけたらしい。

捕虜2

もやい綱だ。

捕虜1

俺たちと同じ、空腹で目が回った。

捕虜2

弱った体に、この大豆袋は重すぎる。

杉本監督

(リチャードを外国人強制労働者から引き離し) やめろ。

この男は、運送会社の者。

お前が診ることはない。

(運送会社の者に) なにをしとるか！

早く医務室に連れて行け。

会社の者達、外国人強制労働者を運んでいく。

リチャード

(台詞) 捕虜の一人に) 君は病人じゃないか。

こんなことしたら、死んでしまうぞ。

捕虜3

捕虜を一人でも遊ばせやしない。

働けない捕虜は死んだ方が収容所にとっては

都合がいいのさ。

捕虜たち

捕虜を何だと思ってるんだ。勇敢に戦った者に対して、この扱いはひどい。

杉本監督

(笑って) 日本人なら降伏するくらいなら、死んでみせる。臆病者。

ひきよう者。

リチャード

(杉本監督に) 収容所に連れて帰るぞ。

杉本監督

ノー！日本の医者は、こう言う。

病人ではない。単なる腹下し。

リチャード

ばかな！赤痢かもしれないのに！連れて帰る！

カヨ

赤痢……

杉本監督、リチャードを突き飛ばす。

カヨ、リチャードを助けたいが、踏み止まる。

カヨ

彼は、あんな乱暴な人じゃない。

仕事が乱暴な人にさせる。

杉本監督

また営倉行きだぞ。

病人の捕虜

俺は大丈夫。ありがとう、軍医殿。

リチャード

駄目だ！連れて帰る！

杉本監督

勝手なことをするな！

リチャード

病人を収容所に返すんだ。

杉本監督、リチャードに殴りかかる。

カヨ

杉本さん。

杉本監督

(独り言)なんと言うことだ。

こんなところを見られてしまった。

勇一にも見せてしまった。

杉本さん。

杉本監督

これはカヨさん、どうしたんですか、こんなところに。

カヨ

勇一に主人が乗っている機雷掃海船を見せに来たのです。

杉本監督

勇坊、どうだ、お父さんの船は？

小さくてもおじさんたちには、勇ましく見える。

神国日本の守護神。

五歳の勇一

(台詞)でも、よく見えない。

杉本監督

じゃあ、こつちに来なさい。よく見えるところに連れてって

五歳の勇一

あげよう。さあ、こっちだ。

(台詞) いい？ お母さん？ 行っても？

カヨ、頷く。五歳の勇一、杉本監督のところにかけて上って行く。杉本監督、五歳の勇一を連れて、輸送船の上に行く。

カヨ

軍医さん、もうこれで大丈夫。

カヨ

お上手な日本語ですね。

リチャード

ありがとう。

カヨ

赤痢と言うのは本当ですか？

リチャード

疑いなのです。収容所内は不衛生です。

医療改善を訴え、何度も営倉に入れられました。でも、薬も設備も整ってくる。

営倉入りは、無駄じゃない。

カヨ、笑う。

リチャード

しかし、あの男は、乱暴で野蛮だ。

カヨ

でもね、さっきの運送会社の監督さん。

会社に頼んで、収容所に医療機材などを寄付

させてるのですよ。

リチャード

本当？

知らなかった……。

カヨ

あの人は見掛けによらないいい人。

私の主人の親友なんです。

リチャード

あなたのハズバンドは、機雷の掃海作業を

しているのですか？

カヨ

新潟港湾警備隊の上等水兵です。

リチャード

私も嫌いです。機雷は。

カヨ

本当にお上手です。

二人、笑う。

カヨ

故郷は、アメリカのどこですか？

リチャード
カヨ
リチャード

シカゴの郊外、オークパークという町です。
おひとりですか？
フィアンセがいます。私の帰りを待っています。

ロケットを見せる。

カヨ

美しい方ですね。

(ロケットを返して)

早く帰ることができるといいですね。

リチャード

アメリカ、私の祖国

アメリカ、自由の国

アメリカ、私の誇り

世界に自由と平和をもたらす国

アメリカ！

アメリカ！

帰りたい いま直ぐ

港を自由に飛ぶカモメのように

翼があるなら

帰りたい いま直ぐ

作業歌が、作業をしながら歌われる

コーラス…

肩に食い込む音か腹が鳴る音か

春秋は一日十時間

夏は一日九時間

宿舎は一人一畳

一日一人当たり穀物七〇五グラム

規則ではそうだが

人參ジャガイモの切れ端

おれたちに配給されたはずの

砂糖や肉は

収容所の衛兵や看守が横流し

肩に食い込む音か

腹がなる音か

五歳の勇一と杉本監督、船から降りてくる。

五歳の勇一

(台詞、コーラスの中で) お母さん、お父さんの船、見えたよ！それも望遠鏡で！

カヨ

(台詞) お父さんは？見えたの？

五歳の勇一

(台詞) 見えなかった。

爆発音

捕虜たち

機雷だ！ 爆発したぞ！

船員、船弦から叫ぶ。

杉本監督、かけ上がる。

船員

(台詞) 触雷したぞ！港湾警備隊の掃海戦だ！

捕虜達や、荷役の人達が、船の上に駆け上がる。

埠頭の岸に駆け寄る。

カヨ、船にかけ上がる。

リチャードに掴まれてしまう。

リチャード

見ないほうがいい

カヨ

放して下さい！

夫が乗っている船かもしれない。放して！

杉本監督、現れる。

五歳の勇一、船の上にかけて上がる。

杉本監督、抱きとめる。

杉本監督

行くんじゃない。

五歳の勇一

(台詞) だって、お父さんの船が。

杉本監督、嫌がる五歳の勇一を抱いて、

埠頭に下ろし、カヨに寄る。

杉本監督

カヨさん、勇一君を。すぐ救命船が出ます。大丈夫

カヨ

武田はこんなことでは死にはしない。
ああ！

カヨ、気を失う。

リチャード、倒れるカヨを支える。

五歳の勇一、杉本監督から逃れ、

カヨにしがみつく。

リチャード

ママは大丈夫。気を失っただけだから。

五歳の勇一、リチャードをカヨから引き離す。

五歳の勇一

(台詞) お母さんに触るな！

掃海船を見ていた人々のコーラス。

コーラス

沈むぞ！掃海船が沈むぞ！

五歳の勇一

(台詞) 鬼畜米英、どうして機雷を落とした。

リチャード、立ち竦む。

11

てかがみ

リチャード

(小さく) アメリカ・・・アメリカ・・・。

明るくなると、高校の校長室。

校長先生が、勇一、亮子、ジョン、レイチェル
を案内して現れる。

高校校長

この、校長室にいらしてください。
式場の控室ですね。

みんな笑う。

高校校長

披露宴の会場は、準備で大わらわでしょう。
様子を見てください

校長、去る。

勇一

亮子、お前の結婚式に、
なぜこういう時に

と、思うことだろう。

どうしても話しておきたいことがある

私たちは席を外しましょうか

ジョン

(首を振り) 一緒に聞いてほしい

勇一

私の母のこと・・・

亮子

おばあちゃん？

私が生まれる前に

病気で死んだのでしょうか？

勇一

私が殺したのだ。

みんな驚く

勇一

お前のおじいさんが

機雷の爆発で死んだことは知ってるな？

(亮子うなづく)

お前のおばあさんは

私が殺した

(亮子に) 向こうに行ってるよ (レイチェルを促す)

ジョン

(ジョンを引き止め)

君が聞いてくれなければ

亮子は、きつと

君に話さないだろう。

亮子はきつと

口を閉ざす

その辛さがわかるから

私は話せない。

君が聞いてくれれば

私は亮子に話すことができる。

この心の海底深く沈めたものを

引き上げることができる。

ジョン、お願い、聞いてあげて。

でもね、亮子。

娘と別れる今

亮子

ジョン

勇一

レイチエル

このまま口を閉ざしたまま
別れることはできない。
背負いきれないのだ。
私は！
聞きましょう、勇一の話。
語り終えるまで耳を傾けましょう

勇一がカタリ始める中、亮子を残して暗くなる。

亮子

今、父は何を語るのか。
私が背負いきれないものか。
父と暮らした
長い年月
私は一度も
父の背にあるものを
見ようとしなかった
今、父は何を語るのか
父と別れる今日という八月一日に

暗転

明るくなる
新潟駅近く。
疎開するごった返す人々。人。人。
人込みの中にカヨ、五歳の勇一、杉本監督が
現れる。

コーラス

足手まといになる老人、幼児、病弱者
速やかに新潟市街地から疎開せよ
建物は空襲に備えて壊せ
疎開するものの荷物は極力少なめに
近距離の輸送は
トラックを使うな
荷車 リヤカーを引っ張れ
速やかに弱者は疎開せよ

五歳の勇一

(台詞) お母さん、僕行きたくない。

カヨ

(台詞) どうして？

五歳の勇一

(台詞) お父さんがかわいそうだ

たった一人海の中。

カヨ、五歳の勇一を抱き締める。

杉本監督

(カヨに) 武田の里には行かんのですか？

カヨ

主人の実家に迷惑はかけたくありません。

長岡の私の実家へ参ります。

杉本監督

(五歳の勇一に) 元気でな、勇坊。

五歳の勇一

(台詞) 僕、どこにも行きたくない。

杉本監督

そんなわがままは許されない

将来きつとお父さんの敵を討ってやれ。

カヨ

(五歳の勇一に) ほら、あなたのお友達よ。

お別れを言ってきたさい。

五歳の勇一、駆け去る。

カヨ

杉本さん、お願いがあります。

あの親切なアメリカの軍医さん。

今日も港に来ますか？

来ないと思いますよ。

また、営倉に入っているとか。

赤痢菌を発見したあと

収容所所長に待遇改善を強く要求したとか

(手鏡を監督に渡す)

これを軍医さんに。

あの時私を介抱してくださった、お礼に。

手鏡ですか？

(頷いて) 帰りを待っている婚約者に。

それから

早く帰国できますように祈っていますと伝えてください

わかりました。今日中に届けましょう。

ありがとうございます。

杉本監督

カヨ

てかがみ

杉本監督

あの、カヨさん。
もし、もしこの私が
もし、もしもカヨさんを

汽笛が鳴る

杉本監督

ああ、もう行ってしまおう！

カヨ

(台詞) 勇一！

杉本監督

カヨさん聞いてください

もし、もしも

汽笛が鳴る

カヨ

(台詞) 勇一！

五歳の勇一、駆け戻って来る。

カヨ

(五歳の勇一に)

おじさんに言いなさい。

さようならと。

(台詞) さようなら。

さようなら、杉本さん。

.....

(台詞) (辺りを見廻して) さようなら、お父さん。

カヨ、五歳の勇一の手を引き、去る。

杉本監督

(見送り)

カヨさん

カヨさん

私はずっとずっと

あなたを思っておりました

親友の嫁に横恋慕など

不埒なこと

でも

カヨさん

カヨさん
私はずっと

警報が鳴る。
逃げ惑う、人々。
たくさんのビラが空から舞い落ちてくる。
人々、せわしくビラを拾い集めながら歌う。

コーラス

伝単と呼ばれるビラを
まき散らして飛び去ってゆく
回収作業は優れもの
勤勉な国民ですから
一枚だって見逃しません
できるなら
折って紙飛行機
神風に乗せて
太平洋を越えて
あなたの国に爆弾
そりゃ大きな爆弾お届けしたい

憲兵

(台詞) (コーラスに重ねて)
ビラを隠し持っていたら
三か月の懲役!
拘留!
百円以下の罰金!
(ビラを読む)

杉本監督

爆撃都市の今後の予定
八王子市、青森市、水戸市、富山市、長岡市!
(息を飲み)

全員

長岡!
長岡に爆撃!
カヨさん
長岡は危ない!
線路よ
曲がれ!

杉本監督

ぐっと曲がれ！
戻ってこい！
戻ってこい！
線路よ曲がれ！

暗くなる・

腰掛けているリチャード、浮かび上がる。

光が漏れ、衛兵が現れる。

衛兵

マクベイン少佐、出る。これで、三回目だぞ。

仏の顔も三度。

次は銃殺。

国際協定に違反。

何が違反だ？

捕虜の扱い。

捕虜になるくらいなら

死ねというのだろう。

(うなずく衛兵に)

勇敢に戦った。

恥じることはない。

たとえ戦争でも

個人の尊厳を保つ

それが男だ

勇敢に死ねてこそ。

もういい。耳にイカ。

それをいうならタコ。

タコより足が多い。

だからもつと聞きたくない話。

足が多い分、蹴飛ばしてやる。

減らず口。

そうとも、減らず口。だから三人前食わせる。

もういい。耳に。

ムカデにしておけ。

衛兵、手を振って去る。

杉本監督、現れる

衛兵
リチャード
衛兵
リチャード
衛兵
リチャード
衛兵
リチャード

リチャード
衛兵
リチャード
衛兵
リチャード

リチャード

これはこれは、杉本さん。
あしたからまた、港に行くよ。
今は機嫌が悪い。

この国の人間、一人残らず、蹴飛ばしたい。
気をつけな。

杉本監督

俺は、お前に会いに来た。

リチャード

私は、あんたに用はない。

杉本監督

そう、俺個人にもない。

とあるご婦人には大あり。

機雷掃海中に犠牲になった警備隊員の奥さん。

これを

俺の親友を殺したアメリカ人のお前の婚約者に。

それから

早く帰国できますように。

確かに伝えたぞ。

戦争の、真ただなかのこの国の人が

この鏡を

私のフィアンセに

早く帰国できるようにと祈る

私たちを収容所に押し込めるこの国の人が切なく祈る

何と皮肉なこと！

こんなもの！

(手鏡を床に投げつけ、壊そうとする)

俺は醜い。

親友の死を嘆かず。

カヨに身を焦がす。

港に浮かぶ油のように

よじれ

ねじれ

臭いにおいを放つ。

だが俺は見る。

汚れた油の

よじれの中に

虹のような輝きを。

カヨ カヨ カヨ

カヨ

カヨ、浮かび上がる。

帰りを待つ人の心を思うと
胸が潰れます。
朝日に手を合わせ祈ることは一つ。
名もなき花一輪に願うことは一つ。
座るべき人のいない食卓に込み上げる
寂しさを想像できますか。
もう座ってくれない座布団にぶつける
悔しさをわかってもらえますか。
この手鏡をあなたのフィアンセに。
あなたの帰りを疑わない人に。
この手鏡を
きつと あしたも
愛する人の姿を
鏡は映す。
あしたを感じることができる。

カヨ、リチャードの歌の中、静かに消えていく。

杉本監督とリチャード

会いたい。
君の面影が
はつきり見える。
別れて
随分たつけれど
昨日別れたようだ。
二時間たつけれど
ずっと別れてたようだ。

杉本監督

杉本監督とリチャード

二人で生きよう。
(二人、手を取り合ってしまう)
どうあっても
二人で。
二人で。

てかがみ

コーラス

幕

第2幕

舞台は、新潟港。
捕虜達が作業をしている。

祭囃子の音か
打ち上げ花火か
八月一日の長岡の
夏の夜空は 茜色に染まり
それは紅蓮の殺戮
B29 その尾翼が
蛍のように光る
蛍の明かりの中から
無数の爆弾
じゅうたん爆撃と呼ばれる
大量殺戮
その爆弾九百二五トン 戦死者は
千四百五十七人
そして 焼野原

杉本監督が、リチャードに話している。
リチャード、苦悶の態。
五歳の勇一、現れ、杉本監督を見つける。

杉本監督

焼野原だ。長岡は。
たくさん殺された。

リチャード

これが、お前の国のやり方だ。
いや、これがこの時代の戦争。

杉本監督

俺は、お前たちを殺してやりたい。

杉本監督、五歳の勇一に気がつく。

杉本監督

勇坊！ 無事だったか！

五歳の勇一、杉本監督にしがみつく。

杉本監督

お母さんは？

五歳の勇一

(台詞) 死んじゃった……………。

焼かれて

たくさんのお骨と一緒にされて

かますに入られた。

よく生きていたな。勇一。

杉本監督
五歳の勇一

(台詞) 母さんを残して逃げた。
母さんがお逃げって。

杉本のおじさんのところに

お行きって。

杉本監督

俺のところだと……………。

杉本監督、泣く。

五歳の勇一

(台詞) 母さんを見殺しにした。

炎の中に残してきた。

僕が母さんを殺した。

忘れろ。

忘れろ。

だれにも言うな。

心の海の底に沈めてしまえ。

呪われた時代を思い出すな。

夢だ。

リチャード
杉本監督

悪い夢。
忘れろ。
忘れろ。

(五歳の勇一を抱きしめる)
勇一、おじさんの子供になれ。
いいなおじさんの子供だぞ。
なんてことだ……。

(リチャードを睨みつけ)
今にお前たちも同じ目に……。
それもお前の国が手を下すのだ。
どういふのだ？

リチャード
杉本監督
リチャード
杉本監督

新型爆弾。
新型爆弾？

六日、広島。九日、長崎。

お前の国は新型爆弾を落とす。

防空壕も何も一切役に立たない

一つの新型爆弾で爆心地から半径十キロ以上滅茶滅茶。

それを新潟に落とすと予告！

私たち捕虜はどうなるのだ？

そんなこと知るか。

俺たちに残る手立ては、本土決戦。

あの世で会おう！

杉本監督、五歳の勇一を連れて去る。

リチャード

これがこの時代の戦争！

荷車を引くものなどが現れごった返す。
憲兵たちが懸命に制止している。

コーラス

新型爆弾
新型爆弾
広島と長崎
全滅
新潟も
全滅

憲兵たち

半径三里以内
被害甚大

落ち着け！
デマだ！
神風が吹く！
落ち着け！
デマだ！
デマだぞ！

コーラス

新潟市民は、速やかに徹底的に疎開
疎開受け入れなきものは
町内ごとに名簿を作成
証明書持参のもの優先に
列車に乗車せよ

憲兵たち

落ち着け！
冷静に疎開するのだ。
いずれ本土決戦
それに備えるのだ。

コーラスと憲兵たち

持参品は最小限度に
身の回りのものだけ
三日分の食料品
米穀通帳
購入通帳
速やかに新潟市を離れよ
新型爆弾
明日にでも新型爆弾
全滅！
全滅！
全滅！

全員ストップモーション

リチャード

これがこの時代の戦争

暗くなる。

杉本監督が浮かび上がる。

杉本監督

新型爆弾の代わりに

無条件降伏。

一億総懺悔……。

なんてさまだ、日本は！

なんという静けさか。

見せかけの静けさだ。

海底には機雷が

ウニの数ほど眠っている。

この国は生まれ変わるのか。

新潟は生まれ変わるのか。

俺は生まれ変わるのか。

明るくなると、埠頭。

海を眺める人達

杉本監督のかたわらに五歳の勇一がいる。

リチャード、現れる。

リチャード

杉本さん。

あなたに会いたかった。

私たちは、明日、帰国するんです。

会えないと思っていた。

俺に何の用だ？

収容所に医療器材を用意したのは、あなたの会社。

あなたが会社に頼んでいた。

でたらめだ。

あんたの顔は、残忍だけど、心は違う。前からわかって
いた。

言ってる。どうせ日本は敗戦国……。

そういうこと。これからあんたたちが捕虜になる。

杉本監督

リチャード

杉本監督

リチャード

杉本監督

うせろ。こんな足でも蹴飛ばすことができるぞ。

まだ行かないよ。あなたには貸しがある。

仕返しが足りないってか？

収容所では無条件降伏を知って捕虜達が大騒ぎ。

衛兵は仕返しを恐れて、逃げ出した。

よかろう。好きにしろ。

お返しが足りないって言ってる。

お返し？

リチャード

杉本監督

リチャード、杉本監督に近寄る。杉本監督

退り、よろけてしまう。

五歳の勇一が、杉本監督をかばう。

リチャード

坊や、お退き。

リチャード、勇一を退かせ、

杉本監督を抱き締める。

杉本監督

馬鹿、何をする、

よせ、放せ、放せたら・・・

日本人達、笑う。

杉本監督、リチャードから逃れる。

リチャード

杉本監督

リチャード

杉本監督

ここを去るとなると、寂しい気がする。

なにを言ってる。帰ればすぐ女房をもらおうくせに。

心は彼女のところに飛んでるさ。

軍医さん。

この国はどうなるんだろう？

この、新潟はどうなるんだろう？

太平洋は牛耳られ

新潟港は日本の命綱。

日本のへその緒だった。

だが、見る。

機雷で埋め尽くされた死んだ港だ。

リチャード

日本の世界地図。

日本の世界地図は太平洋に目が行く。

しかし、日本海を取り囲む国々が

この国にとって近い国。

新潟が、その表玄関。

機雷は、いずれ処理される。

(五歳の勇一を抱き上げる)

そして、今にこの子たちがこの国を担う。

君がこの国を担う。

(五歳の勇一を下ろす)

時は流れる。

今だけを大切に明日を貪り食う

それが時代を担うことか

この時代にあったことを忘れないなら

新しい時代を担うだろう

リチャードと杉本監督

この時代にあったことを忘れないなら

新しい時代を担うだろう。

新しい時代二十一世紀を。

暗転。

明るくなると、舞台は、校長室。

勇一

(亮子に)

私は、中学を出ると、おじさんの家を飛び出した。

恩も忘れた。

風の便りで、おじさんが亡くなったことを知った。

線香も上げなかった。

年を重ね

新潟に舞い戻り

旅行会社を起こした。

(笑って)

一度もお前のジョンの国には行けなかった。

どうして？

母さんを殺したことを思い出したくなかった。

亮子
勇一

亮子
勇一

あの時代を忘れたかった。
なぜ私が、この国を出るときになって打ち明けたの？
火事だ。

あの炎の中に
懐かしい母さんの面影が見えた。

ああ

なのに今は
消えてしまった。

跡形もなく。

一瞬、花火のように現れ
そして消えてしまった。

わたしのパパも、勇一と同じような事を言っています。
私と同じような事？

一九七五年の春。

ベトナム戦争終結寸前。

私の弟クリスは。戦死。

パパは、自分が、クリスを殺したと言っています。
どうして？

わからなかった。
でも

勇一の話聞いて

何となくわかったような気がします。

直接手を下したわけじゃない。

でもあの時代をどうする事もできなかった。

そう言う意味でクリスを殺したと思っっている。

私は違う。母さんを炎の中に見捨ててきた。

炎があの時代。

二十世紀。

忘れてはならないもの。

母さんを見殺しにしたのだ。思い出さたくない。

もう一度見殺しにするのですか？

どういう意味ですか？

あなたは私の世代。

亮子とジョンの世代に橋渡しする世代。

ママのことを忘れた上で橋渡しすれば

あなたに生きてほしかったママの思いを

勇一

無にすることになる。
もう一度殺すことになる。

会場係、現れる。

会場係

準備が整いました。

勇一

君は結婚式場の方じゃないか。

会場係

ここで披露宴を開かれるとお聞きし、支配人に
伝えましたところ、出動命令。全力を挙げて、

立派な披露宴にするよう、

職員一同、馳せ参じましてございます。

素晴らしい！

校長先生

(勇一に) お父さん、よかったですねえ。

小学校の生徒さんたちも皆様のご入場を待っていますよ。

会場係

(勇一に) さあ、お父さん。

校長先生

勇一、立ち上がる。

亮子

待つて、お父さん。ジョン。

ジョン

なに？

亮子

私、このままじゃ、子供たちの歌をまともに聞けないわ。

ジョン

どうしたの？

亮子

私、このままじゃ……。

会場係

どうかしたのですか？ なにか、不都合なことでも？

校長先生

いや、ちよつと……すみませんが、もう少し待つて

いただけませんか？

わかりました。そう伝えてまいります。

会場係

会場係、去る。

ジョン

(亮子に) どういうこと？

亮子

お父さんが背負って来たものに

こんなにも無頓着だった。

先に一步も進めない気持ちなの。

どうしてだい？

ジョン

お父さんの胸に閉じ込めてきたものが

亮子

私の心を乱します。
押さえ付けて
子供たちの祝いの歌を
どうして聞けますか
亮子

いいのだ。
私の傷なのだ。
私一人の傷なのだ。
お前が背負うことはない。
わがままでけど、披露宴、よしてほしい。
なにを言う、今更！

校長先生もお前達のために学校で披露宴をして下さる。
式場の人もやって来た。みんなお前達が会場へ
入場してくるのを待っている。

(校長に) 申し訳ありません。この通りです。
なにを馬鹿なことを。

わかってくれる？ジョン。
ね、わかってくれる？ジョン。
子供たちの歌を平気で聞けないの。
なぜなんだ？なぜ？なぜ？

世代が次の世代に橋渡しをする。
じゃあ、私は？

私は子供たちになにを橋渡しできたのだろう。
(重ねて) お前は立派な先生だよ。
お父さんが背負ってきたものに気が付かないで、
この国を出て行く。その私に子供たちが、
お祝いの歌を歌ってくれる。

私のことはいいのだ。
ああ！
なぜ思い出したのだろう。
歌を平気で聞いてもらえない。
私は、なにも伝えることをしなかった。
こんな私にお祝いの歌を歌ってはいけない。

会場係、現れる。

会場係

校長先生

みんな待っておられます。そろそろ、
おいでいただかなにと
もう少し、待っていただけませんか？

会場係

いったいどうしたのです？

勇一

校長先生、すみません、すぐ、すぐに。

亮子

いやです、とても我慢できないんです。(泣く)

校長先生、会場係に説明する。

会場係、去る。

勇一

わがままはよしなさい。皆さんに迷惑が掛かる。

ジョン

彼女の好きなようにさせてくれませんか。

勇一

そんなこと・・・。

ジョン

彼女の気持ちが変わるのです。

勇一

子供たちに歌がっらい気持ちにさせる。

ジョン

ただの儀式なのだ。

勇一

気がしなければいいのだ。

ジョン

それがよくわかる。

勇一

（勇一を引き止めて）お父さんを愛しているのですよ。

勇一

私が悪かった。

ジョン

思い出さなければよかった。

勇一

なぜ、よりによって

亮子

今日という日にあの日のこと。

勇一

忘れろ、亮子。

亮子

忘れて欲しい。

勇一

どうしてそういうことを言うの？

亮子

お前には関係ないことだ。

勇一

違うわ。

亮子、白いボールを取る。

校長先生

仕方ありませんね、

勇一

亮子！

子供達の歌声が聞こえてくる。

コーラス

結婚おめでとう！
結婚おめでとう！
素晴らしいあしたに またあしたがきます。
昨日とは違った あしたに出会います
目の前の道は一人っきりの道じゃない
素敵な二人の道
でもときには 思い出してください
私たちのことを
ともに歩んだ日のことを
私たちも忘れません
あしたは もっと大切な日になるでしょう

子供達、歌いながら会場係に先導されて
現れる

亮子

やめて！ やめてちょうだい！
私に、あなた達の歌を受ける資格はないの。やめて
ちょうだい……。

子供たち、歌をやめる。
亮子、泣く。
子供たち、心配する。

子供たち

先生！

亮子

私を先生と呼んではいけません。

子供たち

先生！

亮子

私を先生と呼んではいけません。

子供たち

先生！

亮子

あなたたちに何も教えてこなかった。
あなたたちに何も伝えてこなかった。

子供たち

先生！

亮子

教えることは伝えること。

二十一世紀のあなたたちに

二十世紀を伝えなかった。

ジョン

私を先生と呼んではいけません。
皆さん、ごめんなさい。亮子先生は皆さんの歌が
つらいのです。悪く思わないでください。

小学生

(台詞) 先生、どうしたの？

(台詞) 泣かないで、先生。

(台詞) 先生、どうしたの？

(台詞) 泣かないで、先生。

ジョン

先生は、悲しいのです。

皆さんに十分に教えることができなかった。それが
悲しいのです。

会場係

生徒さんたちの歌声を聞けば、気も変わるかと
思ったのです。私が浅はかでした。

(生徒達に) さあ戻りましょう。

勇一が歌う。

生徒達、立ち止まる。

勇一

君がこの国を担う。

時は流れる。

今だけを大切に貪り食う。

それが時代を担うことか。

この時代にあつたことを忘れないなら

新しい時代を担うだろう。

あのアメリカの軍医さんが私に歌ってくれた。

それが今頃になってズシリと響く。

彼、名は、リチャード。

彼は、私の心に

機雷を落としていったのだ。

今私は、機雷に触れる。

彼は知っていた。

私がいずれ機雷に触れるのを。

リチャード・マクベインは知っていた。

リチャード・マクベイン！

なんてことでしょう！

その人が、収容所の軍医さん？

ええ、リチャード・マクベイン。

勇一

ジョン

レイチエル

ジョン

レイチエル

勇一

それがなにか？

私のグランパー

私のパパですよ、勇一。

なんてこと、

ここにも機雷が沈んでいたとは！

(生徒達に) 皆さん、お願いです。

お祝いの準備をしてください。

一生懸命歌ってね。

(亮子に) 私のママがこう言ったの。

クリスの戦死がわかった夜のこと。

あなたに託さなければならぬ。

息子の嫁に託すべきもの。

でも

その息子は嫁も娶らず

私からその機会を奪った。

(手鏡を取り出す)

この鏡をあなたに託す。

あなたはあなたの息子の花嫁に託す。

戦争という災いにも

形をとどめ

鏡に映す明日がある限り

あなたはその花嫁に

その花嫁はその息子の花嫁に

わが母の面影を

伝えてほしい。

その鏡は？

恐らく、あなたのママの鏡。

(鏡を亮子に渡す)

この鏡をあなたに託します。

回り回って

もう一度日本人の手に託された。

私に託された鏡。

あなた達の息子の花嫁に託すのは

もつとずっとあとのこと。

その時までゆっくりと

伝えるべきことを伝えなさい。

亮子
レイチエル

勇一
レイチエル

レイチエル

亮子
勇一

亮子、手鏡の蓋を取り、蓋の裏を見る。
名前が小さく彫つてある。カヨへ。いさむ。
なんということだ。

勇一、亮子から手鏡を奪う。

勇一

母さん！ これは、これは、私の父が、母に贈ったもの。
母さんの肩越しから、母さんの顔を覗いた。
母さんは、私を鏡に写し、顔をしかめたり、
笑つて見せたり……。

亮子、勇一の肩越しに鏡を見る。

勇一

母さん！（鏡の中を見る）

勇一、思わず、後ろを振り向く。

勇一

亮子……。
母さん
花火のように
闇に消えた母さんの面影が
この鏡に写る。
もう忘れることはない。

亮子、勇一に抱き付く。
勇一、亮子に鏡を渡す。

勇一
ジョン
亮子
ジョン

お前がみんなに祝福されるところを見たい。
ぜひそうしてあげなきゃ。
でも。
祝福されて、私たち二人で歩もう。
鏡に明日が写っている限り。
歩みを止めやしない。

亮子、ベールを被る。
生徒達、歓声を上げる。
会場係、指揮をする。
全員が歌に加わる。

コーラス

結婚おめでとう！
結婚おめでとう！
素晴らしいあしたに　またあしたがきます。
昨日とは違った　あしたに出会います。
目の前の道は一人っきりの道じゃない。
素敵な二人の道。
でもときには思い出してください。
私たちのことを。
ともに歩んだ日のことを。

杉本監督、リチャードが浮かび上がる。
勇一、二人のところに近寄る。
二人は、勇一を迎える。

杉本監督とリチャードと勇一

時は流れる。
この時代にあったことを忘れないなら
新しい時代を担うだろう

カヨと五歳の勇一が浮かび上がる。

カヨ

(コーラスに重ねて)
きっと　あしたも
愛する人の姿を
鏡は映す
明日を信じることができる
私たちも忘れません
あしたは　もっと大切な日になるでしょう

全員

幕